

情報共有 5枚
(非管理文書)

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時: 平成 23 年 6 月 27 日 (月) 11:00~11:45
場所: 東京電力本館 3 階大会議室
先方: 記者約 40 名 (カメラ 4 台)
当方: 原子力・立地本部
原子力設備管理部
広報部

配布資料:

- ・ 集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 (6月27日)
- ・ 福島第一サーベイマップ (平成23年6月24日17時現在)
- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (6月27日6時現在)

よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑

Q. 水処理システムは再開後、順調に運転しているという認識で良いか。また本格運転の運用方法は決定したのか。

A. 水処理システムに関しては、正常な運転ができているという認識。ベッセルの交換基準に関しては、本日も4つのベッセルをオンラインで交換する予定であり、もう少しデータを集めて運用方法を検討していきたい。

Q. 循環注水冷却の運転をもって本格運転を開始という理解でよいか。

A. 現在も定格容量で運転しているので、どの段階で本格運転とするかだと思うが、循環注水冷却の開始とあわせて、本格運転と判断していただいても良いかと思う。

Q. 循環注水冷却は目処として、いつくらいになりそうか。

A. 現在、準備を進めている段階であり具体的な時間までは分からない。本日、所内電源切り替え工事を行っており、原子炉注水は仮設DGで行っているが、それを外部電源の電動ポンプに切り替えて、処理した水を原子炉へ注水した段階で循環注水冷却運転の開始となる。

Q. 現地は雨が降っているが、炉注配管のリークチェックは実施するのか。

A. リークチェックは6月12日に一度終わっているもので、基本的には問題なく循環注水冷却に移行できると考えている。

Q. 水処理システムの運用方法は具体的にどのような内容を検討しているのか。

A. 表面線量4mSv/hでベッセルを交換する運用だったが、実際に高濃度汚染水を処理したところ、ベッセルの表面線量が4mSv/hを超えてしまうことが判明したので、今後、交換頻度、フラッシングの有無などについて検討していく。

Q. 原子炉への注水できる水の量は、現在どの程度か。

A. 昨日 17 時の段階で 1490m^3 。今後、順調に稼働することで、 $480\text{m}^3/\text{日}$ が淡水化される。

Q. 昨日 10 時までには 5410m^3 を処理したということだが、現段階でトータルどれくらいなのか。

A. プロセス主建屋の高濃度の汚染水は昨日 10 時で 5410m^3 の処理が終わっており、昨日 18 時 10 分からの処理時間に $50\text{m}^3/\text{h}$ をかけたものを足すと現在の処理量となる。

Q. 淡水化装置での処理量はどれくらいか。

A. $480\text{m}^3/\text{日}$ で処理しており、 $20\text{m}^3/\text{h}$ に処理時間をかけたものが処理量となる。

Q. 本日、所内電源を停止する目的を教えてください。これに伴い、水処理システムの電源も停止するのか。

A. 目的は外部電源強化である。本日、大熊線 2 L 復旧に伴い、所内電源の切り替えを行い、負荷に繋がっている機器を停止する予定である。停止する主な機器としては窒素封入装置、2 号機使用済燃料プールの代替冷却系、2 号機のトレンチからプロセス主建屋への移送ポンプなどがある。原子炉への注水は途切れらせることができないので、仮設 DG に切り替えて注水していく。水処理システムは、電源が異なるため停止しない。

Q. 循環注水冷却のためのリークチェックは注水前に実施しないということか。

A. リークチェックは 6 月 12 日に終わっているが、念のため配管に処理水を通したあと、現地でパトロールを行う予定である。

Q. 水処理システムの配管の一周 4 km とは具体的にどこからどこまでか。

A. プロセス主建屋から始まり、西側の淡水化装置、処理水を受けるタンク、炉注水ポンプの入口を通過して、最終的にタービン建屋までが 4 km である。

Q. 水処理システムの 4 km の配管のホースは何本なのか。

A. 炉注水ポンプまでが 1 本、炉注水ポンプからのホースは 3 本である。

Q. 運用方法が決定していなくても、循環注水冷却を行うということか。

A. 水処理システムとしては、問題なく運転できるという状況であり、今後各ベッセルの交換頻度に関しては、データをとりながら決定していく。

Q. 本格運転しながら運用方法などを決定していくということか。

A. その通り。運転しながら、運用方法を見直していきたい。

Q. 昨日の会見ではリークチェックしてから循環注水を行うとしていたが、なぜ変更したのか。

A. 6 月 12 日に既にリークチェックは完了しており、今回は処理した水を流すので、運転しながら確認を行うことで問題はないと考えている。

Q. 淡水化装置の処理量の最新値を教えてください。

A. 昨日の17時までの淡水化装置の処理量は1490m³である。最新値としては昨日17時から現在までの処理量を加えたものが最新の処理量である。

Q. 水処理システムの本格稼働が本日より開始されるということであれば、6月17日に発表されたロードマップの通りという理解でよいか。

A. ロードマップでは明確な時期まで記載していないが、当社としてはほぼ予定通りという認識である。

Q. 水処理システムが稼働することで安定的な冷却になった、という理解でよいか。それともそれ以外に安定的な冷却に必要な作業があるのか。

A. 設備の安定性ということで、バックアップの電源やポンプの設置、津波対策などを施し信頼性を確保することが重要である。注水源として濾過水タンクから通水していたが、今後は発電所の処理水を再利用することになり、処理水を低減できることも重要と考えている。

Q. 設備としては既に今回の水処理システムでほぼ完成という理解でよいか。

A. ほぼ十分なレベルと考えているが、万一の電源喪失や津波発生等の対策や訓練が必要と考えている。

Q. 汚染水を処理水として使用可能になることで、原子炉への注水量を増やすことができると思うが、そのような対策も安定化の1つとなるのか。

A. 安定化の1つになると思うが、現時点では直ちに注水量を増やすことは検討していないが、溜まり水処理の目途がたてば注水量を増やし圧力容器の冷却を実施することもあり得ると考えている。

Q. 循環注水冷却を確立するために必要なことは何か。

A. まずはシステムを継続運転し、冷温停止に向けて作業をする。溜まり水処理については、現在全長4kmあるため運用が困難と考えている。今後よりコンパクトな冷却設備が必要ではないかと考えている。

Q. 4kmあることでどのような課題があるのか。

A. 接続口からの漏えいや、重機が配管の上を横断する、といったリスクが無いとは言えない。メンテナンス作業も大変であり、今後更なる信頼性向上策が必要と考えている。

Q. 水処理システムの寿命はどの程度か。

A. ポンプやホース類の寿命ということになるので、特に問題にするものではないと考えている。現在システムとして約1年程度稼働することを想定しており、それを考慮して廃棄物処理も検討している状況。

Q. 水処理システムが安定的に稼働することで、汚染水処理は解消されることになるが、それ以外の大きな課題は何か。

A. 今回の水処理システム稼働により、発電所の大きな懸案事項の1つが解消されること

とになる。次の課題としては原子炉の冷温停止に向けた作業、および避難されている方が早くご自宅に帰れるように放射性物質の放出抑制、等が課題となる。

Q. 放射性物質の抑制については、ダストサンプリングでの評価や、建屋カバー設置により対応していくのか。

A. ダストサンプリングにより現時点での放射性物質の値を把握することが重要と考えている。

Q. 1号機の熱交換器を使用する予定はあるのか。また冠水作業を行う可能性はあるのか。

A. 選択肢としては残しているが、現時点で急いで冠水する状況ではない。1号機については、循環冷却のために熱交換器と冷却塔を現地に設置したが、将来必要なときに稼働する予定。

Q. 水処理システムのリークチェックにおいて、仮に漏れが確認された場合でも周辺への影響はないのか。

A. 濃度は 10^2 オーダーであり、仮に漏れたとしても問題ないと考えている。

Q. 仮にリークしている箇所が見つかった場合の対応は。

A. 濾過水に水を戻し炉注水ポンプ停止した後、当該箇所を修理することになる。

Q. リークした箇所の補修方法は。また補修にかかる時間は。

A. 接続部からの漏えいについては約1~2時間程度の修理で対応できると思うが、配管そのものに損傷があった場合についてはもう少しかかると考えている。現時点で配管損傷が発生している可能性はあまりないと考えている。

Q. 仮に水処理システムで補修作業が発生したとしても、継続的に運転できるという理解でよいか。

A. その通り。

Q. 原子炉への注入可能な水の量は6月26日17時時点で $1,490\text{m}^3$ とのことだが、計算方法は。

A. $1,490\text{m}^3$ は試運転時にサプレッションプールサージタンクの低レベル汚染水を処理して出来た淡水 420m^3 を含む数値である。淡水化装置は24日12時に起動し、26日17時現在で約53時間運転し、淡水は約 $1,070\text{m}^3$ 増えており、ほぼスペック通りの処理が出来ていると考えている。なお、本日11時点での処理量は $1,850\text{m}^3$ である。8月上旬に蒸留化淡水化装置が完成する予定であり、 $960\text{m}^3/\text{日}$ の処理が可能となる。

Q. これまで淡水を注入してきたラインも残すのか。

A. 濾過水タンクからの注入ラインも残し、停止した場合のバックアップなどに使用する予定。連続的に水の補給が可能となっている。

Q. 水処理システムによる原子炉への注入はいつ開始するのか。

A. 本日午後開始予定であるが、現在電源停止作業を実施しており、その作業が完了し

準備ができ次第本格運転となる。まだ具体的な時刻は決まっていない。

Q. 水処理システムの本格稼働が始まった段階でご連絡をいただきたい。
A. 検討させていただく。

Q. 電源復旧作業はいつまでかかるのか。
A. 本日午前中より実施しており、現在もまだ作業している状況。

Q. 水処理システムの処理能力の実際の数値は。また処理前の高濃度汚染水の濃度は。
A. 昨日の夕方の会見でご報告したデータが最新である。その結果では、処理前の汚染水濃度は、ヨウ素 131 は $3.4 \times 10^8 \text{ Bq/cm}^3$ セシウム 134 は $2.2 \times 10^6 \text{ Bq/cm}^3$ セシウム 137 は $2.4 \times 10^6 \text{ Bq/cm}^3$ である。処理後の濃度は、ヨウ素 131 は $1.1 \times 10^3 \text{ Bq/cm}^3$ セシウム 134 は $1.5 \times 10^1 \text{ Bq/cm}^3$ セシウム 137 は $1.8 \times 10^1 \text{ Bq/cm}^3$ である。

Q. 水処理システムの表面線量の監視方法は。
A. 水処理システムが安定的に稼働することを確認できれば、週1回のサンプリング測定により確認する予定。急激な線量増加はないと判断している。

Q. 内部被ばく検査において、連絡が取れない作業員が69名いるとのことだったが、調査の最新状況は。
A. 継続して連絡をとるようにしている状況。6月30日までに厚生労働省と原子力安全・保安院に報告するため、現在取り纏めを実施している段階。

Q. 連絡がとれない作業員、とほどのような状況なのか。
A. 海外等に居て連絡がとれない、あるいは所属企業に問い合わせをした際に名前を確認できない、ということである。

Q. 所属企業で名前を確認できない、とはどういう状況なのか。
A. 詳細は調査中。Jビレッジにて線量計配布の際には所属企業と氏名を確認しているが、その際の本人確認が十分でなかったため判別できなくなった可能性がある。

< XXXXXXXXXX アナウンス >

6月28日は株主総会開催のため、プラント状況の説明レクについては1階プレスルームにて11時頃から開始予定。

以上